

以下の翻訳は情報目的のみで提供されます。本翻訳版と英語の最終更新版との間に差異、不一致、矛盾が存在する場合（翻訳の遅れによる場合を含む）、英語版が優先します。

Amazon ECS Anywhereサービスレベルアグリーメント

最終更新：2022年5月5日

本Amazon ECS Anywhereサービスレベルアグリーメント（「SLA」）は、Amazon Elastic Container Service Anywhere（「Amazon ECS Anywhere」）の利用に適用される方針であり、Amazon ECS Anywhereを利用する各アカウントに個別に適用される。本SLAの契約条件と、[AWSカスタマーアグリーメント](#)または利用者による本サービスの利用に適用される当社と利用者との間の他の契約（「本件契約」）の契約条件の間に齟齬がある場合は、かかる齟齬の範囲に関してのみ、本SLAの契約条件が適用される。本SLAにおいて使用する用語（英文では大文字で始まるもの）のうち、本SLAで定義されていないものは、本件契約で定められた意味を有するものとする。

サービスコミットメント

AWSは、月次請求期間において、各AWSリージョンにつきAmazon ECS Anywhereを以下の表に示す月間稼働率で利用可能にするため、商業上合理的な努力を払うものとする（「サービスコミットメント」）。Amazon ECS Anywhereがサービスコミットメントを満たさない場合、利用者は以下のとおりサービスクレジットを受け取る資格を有する。

サービスクレジット

サービスクレジットは、以下の表に従って、サービスコミットメントが満たされなかった月次請求期間について、適用されるAWSリージョンにおけるAmazon ECS Anywhereに対し利用者が支払った料金総額の定率として計算される。

月間稼働率	サービスクレジット率
99.0%以上、99.95%未満	10%
95.0%以上、99.0%未満	30%
95.0%未満	100%

サービスクレジットは、Amazon ECS Anywhereについて今後別途請求される支払いに対してのみ適用できる。当社はその裁量において、利用不可状態が発生した請求期間の支払いの際に利用者が使用したクレジットカードに対して、サービスクレジットを発行することができる。サービスクレジットは、利用者に対し、AWSから返金その他の支払いを受ける権利を与えるものではない。サービスクレジットは、該当する月次請求期間の当該

クレジット金額が1米ドル（\$1 USD）を超える場合のみ適用され、発行される。サービスクレジットは譲渡できず、また他のアカウントに充当することはできない。本件契約に別段の規定がない限り、Amazon ECS Anywhereの提供における当社による利用不可状態、パフォーマンスの不実行、その他不履行が生じた場合の利用者の唯一かつ排他的な救済は、本SLAの契約条件に従いサービスクレジット（該当する場合）を受け取ることである。

クレジットの請求および支払手続

サービスクレジットを受け取るには、[AWSサポートセンター](#)でケースを作成することにより、請求（リクエスト）を提出する必要がある。対象となるには、インシデント発生後、2回目の請求期間の末日までに、以下の情報を添えてクレジットのリクエストを当社に提出しなければならない。

1. 件名に「SLA Credit Request（SLAクレジットリクエスト）」という文言
2. 請求期間、AWSリージョン、請求する各月間稼働率と利用不可インシデントの日時
3. 影響を受けたリクエストと外部インスタンスID
4. エラーを記録し、利用者が主張する停止を裏付けるリクエストログ（これらのログ内の機密情報または機微性の高い情報は削除するかアスタリスク（*）で置き換えること）

かかるクレジットリクエストに関する月間稼働率を当社が確認し、サービスコミットメント未満であった場合、当社は、リクエストが行われた月の翌請求期間内に利用者にサービスクレジットを発行する。上記要件を満たすリクエストおよびその他の情報を提供しなかった場合、利用者はサービスクレジットを受け取る権利を失う。

Amazon ECS Anywhere SLA例外事由

Amazon ECS Anywhereの利用不可、停止、終了、またはその他のパフォーマンス上の問題が、(i) 不可抗力またはAmazon ECS Anywhereの責任分界点を超えるインターネットアクセスもしくは関連する問題を含む、当社の合理的な支配の及ばない要因、(ii) 利用者の作為もしくは不作為（インスタンスの再起動、インスタンスの更新、インスタンス構成の更新、セキュリティグループの無効化、VPC 設定の変更や誤った構成など）、(iii) オープンソースオーケストレーションソフトウェアによってECS Anywhereインスタンスのクラッシュが繰り返される、またはECS Anywhere インスタンスが動作不能になっていること、(iv) 利用者の機器、ソフトウェア、もしくはその他のテクノロジー、(v) Amazon ECSを利用する利用者の権利を当社が本件契約に従って停止もしくは終了したことのいずれかに起因する場合、サービスコミットメントは適用されないものとする（「Amazon ECS Anywhere SLA例外事由」と総称）。

当社の月間稼働率の計算に使用される要因以外の要因が可用性に影響を与えている場合には、当社はその裁量において、かかる要因を考慮してサービスクレジットを発行することができる。

定義

- 「エラー」とは、AWSサイトのAmazon ECS [一般的なエラー](#)に記載されるとおり、500または503のエラーコードが返されるリクエストをいう。
- 「利用不可状態」は、Amazon ECS Anywhereによってエラーが発生することなく処理されたリクエストの割合を、5分間のインターバルごとに計算する。所定の5分間のインターバルにリクエストを行わなかった場合、そのインターバルは100%利用可能であると想定される。
- 所定のAWSリージョンの「月間稼働率」は、月次請求期間におけるすべての5分間インターバルの利用不可状態の平均を100%から減じて計算する。月間稼働率の測定では、Amazon ECS Anywhere SLA 例外事由（上記で定義される）に直接または間接的に起因するダウンタイムを除外する。
- 「リクエスト」とは、APIリファレンスガイドに記載されているとおり、RunTask、StartTask、CreateService、またはUpdateServiceを直接呼び出すことによって、Amazon ECS Anywhereに対して顧客によって開始されるアクションをいう。誤解を避けるために付言すると、これ以外のアクションに対する呼び出しはリクエストとしてカウントされず、サービスクレジットの対象とはならない。
- 「サービスクレジット」とは、対象となるアカウントにクレジットされることのある、上記の規定により計算されたドル建てのクレジットをいう。